

主 文

本件上告を棄却する。

理 由

弁護人原隆男、同鈴木正捷、同松田義之の上告趣意のうち、道路交通法七五条一項四号、一一八条一項三号の三、六六条の構成要件が不明確であるとして憲法三一条、三九条違反をいう点は、所論の「過労」の意義が不明確とはいえないから、所論は前提を欠き、その余は、憲法違反をいう点も含め、実質は単なる法令違反、事実誤認の主張であつて、いずれも刑訴法四〇五条の上告理由にあたらない。

よつて、同法四一四条、三八六条一項三号により、裁判官全員一致の意見で、主文のとおり決定する。

昭和五七年六月二日

最高裁判所第一小法廷

裁判長裁判官	藤	崎	萬	里
裁判官	団	藤	重	光
裁判官	本	山		亨
裁判官	中	村	治	朗
裁判官	谷	口	正	孝